

【題材名】 特別支援学級「学級活動」

【内 容】 オンライン授業を体験してみよう

【使用アプリ】 Classroom、Googlemeet、Jamboard、ロイロノート

【事例紹介】 特別支援学級においても、生徒がツールを選択し、操作できる基礎スキルの習得が必要である。また、話すことや書くこと、資料を読み取ることなど、学習支援が必要な生徒は、情報端末を活用することで、視覚的に捉えたり、自分の考えを様々な形で伝えたりすることができ、これまでとは違ったスムーズな支援が展開できる。Chromebookに搭載されているアプリケーションソフトを利用し、相手の状況に応じて、主体的なコミュニケーションが促されるようにした。

### <授業全体の様子>



### <Googlemeetを活用したコミュニケーション活動>



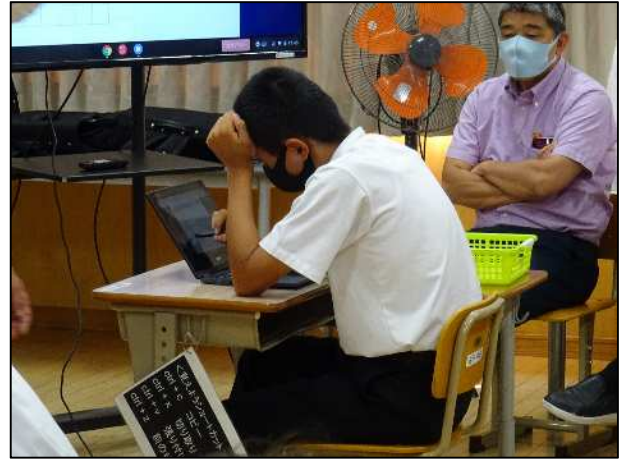
### <Jamboardを活用したコミュニケーション活動>



### <ロイロノートで課題提出>



<ロイロノートの課題に取り組む生徒たち>



<Jamboardを使った研究協議>



【解 説】 スキル習得のみに焦点を当てた授業を展開してしまえば、教員から生徒へ、生徒から教員へといった一方通行的な関わりに陥ってしまう。生徒相互の横のつながりが希薄になってしまい、他者と関わることや社会参加などコミュニケーション力の形成が培われない。そこで、学習活動の中に「遊び」要素を取り入れ、その中で、自分にあった表現方法で、自分の気持ちを伝えていく練習を積み重ねていくようにした。そうすることで、自分の考えや思いを伝える技能が高まっていくであろうと期待ができる。そして、デジタルな環境においても搭載されているアプリケーションソフトやツールを生徒の実態に合ったものにデザインし、「共に学ぶ」学習活動や「達成感が得られる」実践を展開していきたい。

(教育委員会主幹講評) 特別支援学級で積極的に Chromebook を活用されている事例です。言葉で表現することが苦手な生徒が文字入力で表現したり、視覚的に捉えたりするツールとして Chromebook を有効活用できています。